

**【総評】**

受験生の皆さん本当にお疲れ様でした。自分の持っている力を十分に発揮できたでしょうか。思うように得点がおのびなかった人、意外と得点できた人、普段なら解ける問題をミスしてしまった人など、いろいろな人がいることでしょう。教科の得意・不得意などにより達成感も人それぞれと思いますが、まずは全力を尽くした皆さんに拍手を送りたいと思います。高校入試は、中学生の皆さんにとって人生の節目であることに間違いありませんが、最も重要なのは、この経験を今後の長い人生の中でどのように活かしていくかということです。今回の経験が皆さんを強くし、今後の人生の糧となることを祈っています。また、保護者の方々も、受験したお子さん同様に（もしくはそれ以上に）不安を抱きながら過ごされていたことと思います。本当にお疲れ様でした。

以下、今年の入試について簡単にコメントいたします。

**【難易度】**

教科別に見ると、昨年難しかった数学が易化しましたが、そのほかの教科は難化が予想されるため、5教科の合計としては、昨年を下回るのではないかと考えます。全体としては各教科の難易度バランスのとれた出題だったのではないのでしょうか。

**【出題形式・内容】**

形式的には昨年から大きな変更はなく、落ち着いて取り組むことができたものと思います。目新しいところでは、英語で資料読解（イベントチラシ）の出題が見られました。どの教科も文章や資料の読み取りを重視する傾向が強まっており、読解力・表現力重視の傾向は今後も続きそうです。

**【国語】**

- 難易度…第四問・第五問がやや難しかったものの、大半が平易な問題でした。平均点は、昨年よりやや低くなり、65点前後だと予想されます（昨年は70.9点）。
- 構成…大問構成が五題から六題に変更になりましたが、総問題数や配点は変化がありませんでした。
- 第一問（漢字・熟語・行書）…問二は、誤って使われている熟語を探す問題で、新しい形式の出題でした。問三は、行書の特徴について問われました。行書を楷書で書いたときの総画数については、これまで多く出題されているが、行書の特徴については2017年以後の出題となりました。
- 第二問（実用的文章）…実用的文章は、昨年度同様、「話すこと」、「聞くこと」の単元を意識した出題で、話し合いの流れをもとに、「発言の意図」を正確に把握する必要がありました。
- 第三問（文学的文章）…読みやすい文章でしたが、四択問題（問一・問三）は選択肢を絞りづらく、やや難しく感じたのではないのでしょうか。主題となる記述問題（問五）は、例年と同様の難易度だと思います。
- 第四問（説明的文章）…素材文の字数がやや増加し、文章の内容もやや捉えづらく、昨年よりやや難化したと思います。しかし、平易な問題が多く、主題となる記述問題（問四）についても、傍線部の直前部分が解答の手掛かりとなっていたため、昨年より大きく点数が低くなることはないと考えます。
- 第五問（古文・和歌）…注釈が多く付いていたため、内容は読み取りやすかったと思います。和歌の表現技法が問われ、「枕詞」や「掛詞」などの知識が求められました。問四は、古文の中にある和歌の鑑賞文を書くというものでしたが、なかなか読み取りづらく、難しいと感じた受験生が多かったと思います。
- 第六問（作文）…資料にグラフを用いた問題は、過去10年出題されていなかったため、新しい形式の出題となりました。しかし、具体的なグラフが提示されているため、昨年のような空欄にあてはめる言葉を自分自身で考える問題よりは、書きやすい問題であったのではないかと思います。

## 【数学】

- 難易度…昨年よりやや易しい出題になりました。やや複雑な問いや読解力が試される問題もありましたが、問題全体での難易度および単元のバランスが取れており、適切に時間配分ができていれば高い得点率が望めそうです。平均点は昨年より上がり、50点前後と予想します。
- 構成・形式…昨年から構成の大きな変化は見られませんでした。昨年と同様に図表や文章の読み取りが多く、読解力が求められました。出題単元では、近年出題頻度が高まっているデータの活用分野が大問で出題されました。
- 第一問…基礎・基本を重視した出題でしたが、例年に比べ、思考力を問う問題の割合が増えました。
- 第二問…後半にやや難易度の高い問題が多く出題されました。3は、2乗に比例する関数についての問題。座標をもとにaについての方程式をつくることができるかがカギとなりました。4は昨年に続いて規則性に関する出題。比較的オーソドックスな題材・内容でしたが、落ち着いて条件を整理できていないと、早々につまづいてしまい、以後の問いを解き進められなかったかもしれません。
- 第三問…データの活用と1次関数からの出題。見開きで図や文章のボリュームが多く、身構えてしまった人もいるかもしれません。1(2)は中央値に関する記述問題。グラフからの読み取りをもとに適切に表現する力が求められました。
- 第四問…例年通り、平面図形からの出題。例年通り、最終問(3(2))は非常に難易度が高かったものの、大問全体としては非常に素直でスムーズに解きやすい問題でした。

## 【社会】

- 難易度…語句問題と記号問題は基本的なものが多いですが、昨年よりは難度が上がっており、平均点は昨年(68.0点)より下がり63点前後と予想します。
- 構成・形式…昨年同様、大問数は6題、全体の小問数は30問でした。配点は小問1のみ15点で、ほかの大問はすべて17点でした。また、大問2～大問6の最後の問題は、例年通り複数の資料を利用した記述問題となっており、資料を読み取り、文章にまとめる力が求められます。
- 第一問(歴史・公民)…新紙幣の発行をテーマとして、歴史分野・公民分野から基本的な内容が多く出題されましたが、3(2)の「殖産興業」は難度が高めでした。
- 第二問(地理)…南アジアに関する出題でした。2の資料読み取り問題は、計算が必要な選択肢が含まれており、昨年より難度が上がりました。
- 第三問(歴史)…日本の貿易の歴史に関する出題でした。3の年代並べかえ問題は、選択肢どうしの年代が近いですが、江戸時代の鎖国までの流れの年代並べ替え問題は定番です。
- 第四問(公民)…私たちの消費生活に関する出題でした。記号問題は誤答の選択肢が判別しやすく解答しやすかったのではないのでしょうか。4の記述問題は、各資料から読み取れることをふまえて、利点としてうまくまとめることができたかどうかポイントになりました。
- 第五問(地理・歴史)…東北地方に関する地理と歴史の融合問題でした。3の資料読み取り問題は第二問と同様に計算が必要な選択肢が含まれており、昨年より難度が上がりました。5の記述問題は「交流の活性化」まで書けた人は少なかったのではないかと思います。
- 第六問(歴史・公民)…社会保障制度のあゆみに関する歴史と公民の融合問題でした。基本的な内容が多く、記述問題もまとめやすい資料になっていたため、取り組みやすかったのではないかと思います。

### 【英語】

- 難易度…平均点は昨年より下がり、50～55点前後と予想します。選択肢で悩む問題も多く出題されました。中間点が設定された問題で、どれだけ得点を積み上げられたかがポイントとなりそうです。
- 構成…昨年と同じ構成で、大問数は5題、全体の小問数は30問でした。配点は第一問から第三問までは昨年と同じでしたが、第四問は29点（昨年26点）、第五問は8点（昨年11点）となりました。
- 第一問（リスニング）…例年同様の出題形式でした。問題4の英作文は、質問文の内容が難しく、解答が難しかったと予想します。
- 第二問（小問集合）…1の語句選択問題、2の並べかえ問題は例年通りの出題でした。3には、新たに資料読み取り問題が追加されましたが、取り組みやすい問題でした。
- 第三問（長文読解）…例年同様の出題形式でした。長文の話題は「地元の将棋クラブ」でした。わかりやすい英文が使われていますが、なかには難しい英文も含まれました。
- 第四問（長文読解）…例年同様の出題形式でした。長文の話題は「3人の外国人の体験談」でした。それぞれの登場人物の発言を正しく理解できたかどうかポイントになりました。5の記号選択問題は昨年よりも解答に迷う問題もあり、やや難化したと予想します。
- 第五問（英作文）…昨年までの英作文2題の出題から、英作文1題の出題へ変更となりました。「ランドセル使用の是非」を問う題材で、自分の考えを英語で表現する力が求められました。

### 【理科】

- 難易度…とりかかりやすい問題が少なくないものの、第三問や第五問の計算問題が難しく、第二問や第四問で思考力が必要とされる問題が出題され、平均点は昨年より下がり、50点台中盤になると思われます。
- 構成…昨年と同じ構成で、全体の小問数は32問、配点は第一問が36点、第二問から第五問は各16点でした。完全解答は2問、記述は3問、作図は1問でした。
- 第一問（小問集合）…刺激と反応（生物）、白色粉末の区別（化学）、音・電流の正体・天気の変化（物理・地学）からの出題で、全体の形式や構成は昨年と同じでした。ほとんどの問題が基本的な内容に関する出題でしたので、確実に得点したいところです。
- 第二問（地学・惑星の見え方）…金星と火星の見え方に関する問題でした。問題文や図から惑星の位置関係を読み取って考えるもので、思考力が問われるものでした。
- 第三問（化学・中和）…硝酸と水酸化カルシウム水溶液の中和に関する出題が中心でした。実験Iと問題1～4はよく見慣れた問題でしたので、スムーズに解答できたのではないのでしょうか。一方、5の計算問題は非常に難しいものでした。
- 第四問（生物・生命の連続性）…植物の花のつくり、受精の過程や遺伝の規則性に関する出題でした。3と4は遺伝と花のつくりについての知識を踏まえた上で思考するもので、難しいものでした。種子と果肉の遺伝子の組み合わせが必ずしも同じにならないことを意識できるかがポイントでした。
- 第五問（物理・電気回路）…電気回路や電力量に関する問題でした。実験の内容はよくあるものではありませんが、電熱線の抵抗を実験結果から求めたり、問題文をもとに加えた電圧や流れた電流の大きさを求めるたりする必要があるなど、全体に難しい内容の出題でした。